

スギタニルリシジミ 鱗翅目 (チョウ目) シジミチョウ科 *Celastrina sugitanii* (Matsumura, 1919)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市国府町雨滝 / 撮影：鳥越康教

■**選定理由**：良好な山地林の指標種。生息適地が減少している。
 ■**特徴**：4月～5月上旬の早春のみ山地の溪谷に出現する小型のシジミチョウ。ルリシジミ *C. argiolus* に似るが、翅裏面がより暗色で黒点が白く縁取られたように見える。成虫は訪花吸蜜するほか、地上でよく吸水する。幼虫はトチノキの花や蕾などを食べ、分布はほぼ食樹の分布と一致する。県内では県東部に生息地が多いが、県西部ではタタラ製鉄により生息地が失われた可能性があげられている。

■**分布** 県内：三朝町東部以東の山地と江府町周辺。県外：北海道，本州，四国，九州；中国，台湾，朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：毎年開花が確保されるトチノキ高木やまとまった本数のトチノキ林の保存が重要。生息環境としてはトチノキ群落をともなうブナ原生林域の保全。

■**文献**：76。

執筆者：佐藤隆士

ヒメシジミ 鱗翅目 (チョウ目) シジミチョウ科 *Plebejus argus micargus* (Butler, 1878)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



大山香取 2007.7.8 / 撮影：干村隆司

■**選定理由**：安定した生息環境である湿原の減少が進行している。

■**特徴**：小型のシジミチョウ。雄の翅表は青藍色，雌は褐色。年1化で成虫は6月中旬～8月上旬に出現。成虫は花で吸蜜。幼虫の食草は中国地方の湿原ではキク科のマアザミ，乾性地ではヨモギなど。基本的には隆起準平原や源流の緩傾斜地に形成されたミズゴケ湿地。大山山系では乾性草原，県中部地域では林道沿いの草地への進出も局所的に見られるが，二次的に獲得した生態であると判断される。

■**分布** 県内：佐治村～日南町までの中国山地。大山周辺と日南町一帯に生息地が多い。本県での分布東限であった佐治村津野の湿原では絶滅。県外：北海道，本州，九州（絶滅）；ヨーロッパ～東アジア北部。

■**保護上の留意点**：湿原の保全（水位低下を防ぐことと，植生遷移の進行を防ぐこと）および，生息地である草原の連続性の保持。

■**文献**：76。

執筆者：永幡嘉之

ウスイロヒョウモンモドキ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科 *Melitaea protomeia protomeia* (Ménétrières, 1859)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



鳥取市佐治町三原台 2005.7.10 / 撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：生息地が1カ所のみとなり，絶滅の恐れがきわめて高い。

■**特徴**：ススキの優占する丘陵地～山地の乾性草原に生息。成虫は6月下旬より7月に発生。幼虫の食草はオミナエシとカノコソウで，根元近くの葉裏に産卵，幼虫は枯葉で巣を作り越冬。

■**分布** 県内：岩美町から日南町まで連続的に分布していたが，1980年代後半から激減した。現存生息地は鳥取市佐治町の1カ所のみ。県外：兵庫県～島根県（現存する生息地は5カ所のみ）；アジア大陸北部～朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：生息地の一部で草刈り等の対策がとられたが，現在も遷移が進行中で，定期的な草刈りの継続が必要。産卵に際しては細かく環境を選択するため，広く刈り広げて，過去のように多様な環境を含む大面積の草原を復元する必要がある。火入れは幼虫が死滅するため不適。

■**特記事項**：鳥取県特定希少野生動物。

■**文献**：77。

執筆者：永幡嘉之

ヒョウモンモドキ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科
Melitaea scotosia Butler, 1878

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



岡山県中和村大原 1992.7.1 小林一彦採集/撮影：永幡嘉之

- 選定理由**：1976年の三朝町での記録を最後に発見されず、絶滅と判断。
- 特徴**：キセルアザミやタムラソウなどの生育する湿原、湿地に生息し、成虫は6月中旬～7月に出現。中国山地で知られる食草はキセルアザミで、成虫は各種の花に集まる。越冬態は幼虫。
- 分布** 県内：県内すべての産地で絶滅。県内のかつての生息地は、地形および環境から、溪谷沿いの草地（八頭町滝谷、若桜町氷ノ山・諸鹿、鳥取市佐治町福園など）と、中国山地の高位準平原に形成された湿地（三朝町福本、倉吉市関金町犬狹峠、伯耆町大山榎水原など）とに大別される。なお、文献記録で最も新しいものは佐藤・川上（2009）にある1982年の「鳥取県蒜山」であるが、真に県内で採集されたものかどうか検討の余地がある。県外：本州（現在では広島県世羅台地のみ）；ロシア極東地方、中国東北部、朝鮮半島。
- 文献**：127, 173.

執筆：永幡嘉之

ウラギンスジヒョウモン 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科
Argyronome laodice japonica (Ménétrières, 1857)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



山形県 2009.8.17/撮影：永幡嘉之

- 選定理由**：生息地が農耕環境の周辺にあり、個体数が激減している。
- 特徴**：ヒョウモンチョウ類には類似した種類が多い。初夏に発生、盛夏には休眠し、9月に再び活動。成虫は花を訪れ、幼虫で越冬する。畦道や堤防の草原に生息。大山など中国山地にもかつては生息していたが、分布の主体は平地から低山地にある。成虫は林縁でも見られるが、食草（県内では未確認）が草原性のスミレやアリアケスミレであることから、発生地はおもに耕地周辺の草丈の低い草原に限定される。
- 分布** 県内：かつては全域の丘陵地～山地。1990年代以降に記録があるのは鳥取市（鹿野野を含む）、伯耆町（旧溝口町）、日野町のみ。現状は不明。県外：北海道、本州、四国、九州；ユーラシア大陸（別亜種）。
- 保護上の留意点**：生息の現状および発生環境を詳細に調査することが急務。生息環境は、いずれにせよ草刈りなどによる人工的な維持管理が必要。
- 文献**：128.

執筆：永幡嘉之

メスグロヒョウモン 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科
Damora sagana liane (Fruhstorfer, 1907)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



山形県 2010.8.18/撮影：永幡嘉之

- 選定理由**：個体数が激減し、近年の確認例はない。
- 特徴**：斑紋の雌雄差が顕著。幼虫は林縁のスミレ類各種を食べて生育、成虫も林縁に生息。成虫は6月に発生、花を訪れ、盛夏には休眠して秋季に交尾、産卵する。秋季には成虫の確認される範囲が6月よりも拡大する。幼虫越冬。1950年代までは、鳥取市や米子市では最も多いヒョウモンチョウ類のひとつだったとされる。
- 分布** 県内：過去には全域の低山地に普通だったが近年の確認例はない。県外：北海道～九州；ロシア、中国、朝鮮半島（別亜種）。
- 保護上の留意点**：生息状況の現状把握が急務。本種はシータテハやスジボソヤマキチョウ、ウラナミアカシジミと同様に、広い地域から同時期に減少しており、狭い生息地管理では対応が困難であることが予想される。
- 文献**：129.

執筆：永幡嘉之

クモガタヒョウモン 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科

Nephargynnis anadyomene ella (Bremer, 1864)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三朝町木地山 1994.6.16 小林一彦採集/撮影：永幡嘉之

- 選定理由**：県内全域に生息していたが、近年の減少が著しい。
- 特徴**：ヒョウモンチョウ類の中で最も早く発生する。低山地の林縁などでノアザミ、オカトラノオなど各種の花を訪れ、夏に休眠した後、9月に再び現れ、交尾、産卵する。越冬態は幼虫。低山～山地の林縁の草原に生息する。幼虫の食草は林縁に自生する有茎種のスミレ類のいずれかであろうと考えられるが県内では未確認。
- 分布** 県内：本来低密度であったが、全域に分布していた。1990年代以降の記録は鳥取市、国府町、郡家町、大山町の丘陵地に限られる。県外：北海道、本州、四国、九州；ロシア、中国、朝鮮半島。
- 保護上の留意点**：生息状況の現状調査が急務。耕地周辺の落葉樹林を大面積で保全することが必要。なお、本種の成虫の活動時期がマツクイムシ防除の空中散布と一致したことが、減少要因のひとつである可能性がある。
- 文献**：130。

執筆：永幡嘉之

オオウラギンヒョウモン 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科

Fabriciana nerippe (C. & R. Felder, 1862)

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



八頭郡智頭町 1937.6.23 香河三郎採集/撮影：川上 靖

- 選定理由**：1960年代までは大山などに生息していたが、その後急激に減少し、1967年以降の記録がない。県内では絶滅していると考えられる。
- 特徴**：前翅長は35-40 mm前後。雌はとくに大きい。年1化（6月上旬～7月下旬）。食草はスミレ、ツボスミレ。衰亡の原因は、戦後の営農形態の変化によるシバーススキ草原の変貌や農薬の過使用と推定されている。中国山地で広く行われていた放牧による大規模な草原は、現在ではほとんどが失われており、本種の復活は期待できない。
- 分布** 県内：記録されている産地は、牛臥山（智頭町）、船上山（旧赤碕町）、江尾（江府町）、大山中の原（大山町）、大山榎水原（旧溝口町）など。県外：山口県秋吉台、佐賀～長崎県境大野原、大分県日出生台、鹿児島～宮崎県境えびの高原など。国外：朝鮮半島、中国、ロシア沿海州など。
- 保護上の留意点**：食草のスミレ、ツボスミレが生育する草原の保全。
- 文献**：7, 215。

執筆：淀江賢一郎

ミスジチョウ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科

Neptis phillyra excellens Butler, 1878

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥取市佐治町/撮影：鳥越康教

- 選定理由**：生息情報が少ない。
- 特徴**：開長約6 cmの大型ミスジ類。寄主はカエデ類。年1化性で成虫は5-7月に出現し、食樹が豊富な山地溪谷部で樹上での滑空姿や地面での給水姿を目撃することが多い。幼虫は越冬時にカエデ類の葉を枝に綴って巣を作る。県下では山地からの記録が少なく、関東以北のように鳥取市周辺の低標高地で確認されることが特筆される。比較的良好な森林を好み、関東では都市化に伴い低標高地での記録は減少する。
- 分布** 県内：鳥取市周辺の低山帯、鳥取市佐治町～日野町の山地。県外：北海道、本州、九州、対馬、ロシア極東域、中国東北部、朝鮮半島、台湾。
- 保護上の留意点**：鳥取市近郊では環境指標として動向を注意する必要がある。県下全体では調査不足の可能性あり。情報の蓄積が望まれる。
- 文献**：15, 160, 174, 192。

執筆：佐藤隆士

ホシミスジ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科
Neptis pryeri pryeri Butler, 1871

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市栗谷 2010.6.12/撮影：鳥越康教

■**選定理由**：岩美町の海岸線に近い人家周辺で近年発見された。県内では自然分布としては唯一の確実な発生地である。

■**特徴**：前翅長30 mm前後。山陽地方の産地では年2-3回の発生を繰り返すとされるが、県内ではおそらく年1化(7月)。食樹シモツケ、イワガサが生える崖地が発生地だが、山陽～関西地方などの市街地ではコデマリ、ユキヤナギのような栽培植物でも発生する。

■**分布** 県内：岩美町、八頭町(旧八東町)山志谷、日南町多里にも記録があるが再発見されていない。鳥取市内でも発見例がある(写真)が、ユキヤナギ園芸品が山陽地方から持ち込まれたさいに幼虫か蛹が付着していたものだろう。県外：本州、四国、九州(離島では隠岐諸島など)。各地の個体群が亜種記載されている。

■**保護上の留意点**：目下研究中であるが、岩美町産は特異な変異をもつ地域個体群であり、イワガサの生育する崖地の保全が重要。

■**文献**：8, 44, 64, 146, 182.

執筆者：淀江賢一郎

シータテハ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科
Polygonia c-album hamigera (Butler, 1877)

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



山形県 2010.10.10/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：1985年の智頭町の記録を最後に生息確認例がない。

■**特徴**：中型のタテハチョウで敏捷。樹液、果実、獣糞から吸汁し、花にも集まる。越冬態は成虫。食草はハルニレ(ニレ科)など。山地の落葉樹林、特に溪谷林に生息。本種はかつて広く生息していた中国山地の全域からほぼ同時期に姿を消したため、生息環境の改変以外にも要因がある可能性がある。本質的に分布変動の大きな種であるとすれば、再び分布を広げる可能性が皆無ではないが、近年の温暖になりつつある気象条件下では、その可能性は低いと推測される。

■**分布** 県内：絶滅。過去の記録地は、若桜町、智頭町、鳥取市(国府町、河原町)、関金町、大山周辺(豪門山、横手道、三ノ沢)、江府町など全域の山地にみられる。春には鳥取市・米子市の低地でも採集されていた。県外：北海道、本州、四国、九州；旧北区全域(国外は別亜種)。

■**文献**：131.

執筆者：永幡嘉之

オオムラサキ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科
Sasakia charonda charonda (Hewitson, 1863)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



雌 岩美町 2010.7.26/撮影：鳥越康教

■**選定理由**：県内に広く分布するが局所的でどの生息域においても個体数は少なく著しく減少している。

■**特徴**：国内最大のタテハチョウで翅長50 mmを超える。雄は翅表の基半部が青紫色に輝くが雌はこれがない。幼虫はエノキを食樹とし、成虫は雌雄ともにクヌギなどの樹液に集まる。年1回6月中下旬～7月に発生。

■**分布** 県内：ほぼ全域に生息するが局所的である。1990年以降に記録されている場所は、岩美町、鳥取市、倉吉市、三朝町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州に分布しているが、近年の開発のため生息地が大幅に減少している。

■**保護上の留意点**：幼虫のえさとなるエノキや成虫のえさとなる樹液を出すクヌギ林の伐採等により減少している。生息域である里山の雑木林等の維持管理が大変重要である。

■**文献**：111, 168, 183, 194.

執筆者：松田裕一

ウラナミジャノメ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科

Ypthima motschulskyi (Bremer & Grey, 1852)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



兵庫県新温泉町城山 2005.7.23 小林一彦採集/撮影：永幡嘉之

■**選定理由**：局地的な分布を示す種で，県内では鳥取市に生息地が知られていたが，1950年代を最後に記録が途絶えていた。2009年に岩美町で再発見されたが，生息地は非常に局地的で危険な状態にあるとおもわれる。

■**特徴**：前翅長は25 mm前後。翅表は暗褐色で，前翅端付近と後翅後角付近に1個の眼状紋がある。山陽地方では年2化（6月と8-9月），兵庫県浜坂では年1化（7月）。幼虫はイネ科やカヤツリグサ科の植物を食べる。近縁のヒメウラナミジャノメが，田畑のわき，河原，林縁など多様な草地環境の生息するのに対し，本種はどこでも局地的である。

■**分布** 県内：現在は岩美町西部の一カ所。過去には，鳥取市久松山山麓にも記録があった。県外：神奈川以西の本州，四国，九州，対馬，壱岐，屋久島など。

■**保護上の留意点**：岩美町西部の生息確認地の環境の維持とともに，近辺にさらに生息地がないか，継続した調査が必要である。

■**文献**：64, 148, 188.

執筆者：淀江賢一郎

ヒメヒカゲ本州西部亜種 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科

Coenonympha oedippus arothius Okada & Torii, 1945

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



伯耆町 (旧溝口町) 1994/撮影：鳥越康教

■**選定理由**：県内に現存する生息地は数地点で存続が非常に危ぶまれる。

■**特徴**：小型種。幼虫越冬で，成虫は夏季に発生し，花を訪れる。幼虫の食草はスゲ類（カヤツリグサ科）だが，県内では未確認。日当たりのよい山地草原に生息するが，風衝地の乾性草原に生息する場合と，湿地周辺の湿性草原に生息する場合とがある。全国的に激減しているが，県内でも緊急に現状を把握し，毎年の調査によるモニタリングを実施することが必要。

■**分布** 県内：中国山地に沿って，過去には智頭町から日野町にかけて広く生息していたが，近年でも生息している地点は数地点。県外：本州（中部～中国地方）；ユーラシア大陸東部（別亜種）。

■**保護上の留意点**：生息地は湿性草原・乾性草原ともに，いずれの場所でも遷移が進行しているため，人為的な管理が必要。火入れは越冬幼虫に影響を与えるので草刈りが望ましく，時期と回数は植性に応じて検討する。

■**文献**：132.

執筆者：永幡嘉之

キマダラモドキ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科

Kirinia fentoni (Butler, 1877)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



三朝町福本 1993.8.5/撮影：鳥越康教

■**選定理由**：減少が著しく，現在確認できる生息地がごく少数しかない。

■**特徴**：成虫は7月中旬から出現，中国山地沿いの草原周辺の，カシワなどが生育する疎林や，周辺の雑木林で見られる。樹液や獣糞に集まり，夕刻には活動が活発になる。食草はイネ科，カヤツリグサ科などの単子葉植物。幼虫越冬。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町～日野町の中国山地の草原周辺で記録されているが，現在確認されているのは江府町三平山のみ。現状調査も大幅に不足。県外：北海道～九州；ロシア極東域，中国東北部，朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：現状調査が急務。他の草原性チョウ類の保全と関連づけながら，草刈り等による草原の維持管理を実施することが必要。

■**文献**：133.

執筆者：永幡嘉之

オオヒカゲ 鱗翅目 (チョウ目) タテハチョウ科
Ninguta schrenckii Ménériès, 1858

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



安来市佐久保町 2010.6.20/撮影：坂田国嗣

- 選定理由**：生息地が限定され、減少傾向にある。
- 特徴**：翅長約40 mm。ヒカゲチョウの中では最大種。山地～低山地のカササゲ、シロスゲなどの見られる湿地周辺に生息する。直射日光を嫌い、日中は林や下草など薄暗い所で休んでいる。曇った日や夕方には林周辺に出てくるが、人には敏感でゆっくりとした飛翔で林内へ逃げていく。雌は9月ごろまで生き残り、スゲ類に産卵、孵化した幼虫2-3令で越冬し、6月ごろに羽化する。
- 分布** 県内：県中西部（米子市、南部町、旧溝口町、三朝町など）。県外：北海道から山口県まで局地的に見られる。
- 保護上の留意点**：かつては、放置された谷筋奥の休耕田などが生息適地にもなっていたが、乾燥化、樹木の進入など遷移の進行で消滅したところもあり、今後の湿地環境には注意が必要。
- 文献**：116.

執筆：坂田国嗣

シナミズメイガ 鱗翅目 (チョウ目) ツトガ科
Elophila sinicalis (Hampson, 1897)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



雌 日南町神戸の上 2008.8.8 採集/撮影：矢野重明

- 選定理由**：湿地環境に出現する種で、調査不足であるが、県内では生息地が局限されると予想される。鳥取県は本種の日本海側では東限。
- 特徴**：翅は細長く黄味を帯びる。前・後翅とも白色の横線で囲まれている。成虫は8-9月に出現、幼虫の食草はトチカガミ科のトチカガミ、ウキクサ類。
- 分布** 県内：現在のところ若桜町大炊と日南町の湿地。県外：九州、五島列島、中国地方5県と兵庫県、大阪府。国外では中国、朝鮮半島。
- 保護上の留意点**：生息地である湿地環境の維持が重要である。
- 文献**：46, 212, 220.

執筆：矢野重明

モンホソバスズメ 鱗翅目 (チョウ目) スズメガ科
Ambulyx schauffelbergi Bremer & Grey, 1853

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



雄 江府町三平山西麓 2006.8.16採集個体/撮影：矢野重明

- 選定理由**：調査が十分ではないが、近年著しく個体数が減少傾向。
- 特徴**：開張は70-90 mmになる比較的大きなスズメガ。平地、山地に生息し、成虫は5-8月に発生する。腹部に大きな褐色紋が見られる。幼虫はオニグルミやサワグルミを食樹としているが、オニグルミ食の近似種アジアホソバスズメが普通種となるいっぽうで本種が稀となっている。
- 分布** 県内：全域に生息するが少ない。県外：北海道南西部、本州（宮城県以南）、四国、対馬；国外では中国。
- 保護上の留意点**：現在の生息環境を維持することが重要。
- 文献**：42.

執筆：矢野重明

ウスジロドクガ 鱗翅目 (チョウ目) ドクガ科

Calliteara virginea (Oberthür, 1879)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



雄 日南町上石見 1970.5.17採集/撮影：矢野重明

■**選定理由**：生息地が局地的で、かつ少ない。

■**特徴**：開張は雄は45 mm内外，雌は60 mm内外の大型種。体・翅とも白く，雄の後翅の中ほどは褐色を帯びる。成虫は5-6月頃に採集される。やや明るい二次林に生息。

■**分布** 県内：大山町（近年は30年以上記録がない），日南町。県外：本州（宮城，秋田，岩手，岐阜，兵庫，岡山），四国（香川）；シベリア，朝鮮，中国。

■**保護上の留意点**：食草はハギ類と言われているが，なぜ選定理由のようになるのか，生息情報の蓄積が必要である。

■**文献**：106, 213.

執筆者：矢野重明

トビロアカガネヨトウ 鱗翅目 (チョウ目) ヤガ科

Euplexia albilineola (Wileman & South, 1918)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



雌 日南町神戸の上 2008.9.27採集/撮影：矢野重明

■**選定理由**：里山環境に生息する種とみられ，生息地の減少が疑われるが，採集記録は少なく，その減少度合いは不明。

■**特徴**：開張30 mm前後。前翅は暗い紫褐色で模様が白い線で縁取られている。年1化で成虫は9-11月頃に採集される。食草は不明。里山環境を好む種と思われ日南町でも民家や畑のある地域で採集されている。

■**分布** 県内：日南町の記録がある。県外：本州，四国，九州。日本固有種。

■**保護上の留意点**：里山的環境を適当に管理し，保全が求められる。

■**文献**：42, 107.

執筆者：矢野重明

ミヤマハガタヨトウ 鱗翅目 (チョウ目) ヤガ科

Mniotype bathensis (Lutza, 1901)

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



雄 大山三の沢 2007.6.20 採集/撮影：矢野重明

■**選定理由**：本州中部以北に分布する亜高山性の蛾といわれ，西日本からの記録はない。大山では1998年と2007年に採集されている（未発表；分布南西限）。

■**特徴**：開張45 mm内外。後翅は全体的に灰白色である。年1化で6-8月頃に出現。既知の食草はエゾリンドウだが，大山にはないので，近似の何かを食草にしているのだろうか。

■**分布** 県内：記録があるのは大山のみ。県外：北海道，本州（石川県，富山県，新潟県，岐阜県，神奈川県など）。

■**保護上の留意点**：暖地性種の東進北上がめだつ中で寒地性のこの種の絶滅が危惧される。

■**文献**：42.

執筆者：矢野重明

クロビロードヨトウ 鱗翅目 (チョウ目) ヤガ科
Sidemia bremeri (Erschoff, 1867)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 大山三の沢 2007.9.15 採集/撮影：矢野重明

■**選定理由**：山地性の草原に生息し、県内では大山榎水原などに多産したが、90年代以降は減少が目立ち、最近10年間の採集例は1個体にとどまる。

■**特徴**：開張は45 mm内外。後翅は褐色。草原性のガで年1化、成虫は8月頃に出現する。食草は不明。70年代までは岡山県の蒜山草原や本県の大山周辺、とくに榎水原には多く見られた、今世紀に入ってから2007年に大山三の沢で2007年に1雄が採れたのみ。

■**分布** 県内：大山周辺と日南町のみ記録がある。県外：北海道、本州(広島県まで)の内陸草原や盆地；ロシアアムール地方、中国、朝鮮。

■**保護上の留意点**：山地草原の適正な管理が必要。

■**文献**：42, 213.

執筆者：矢野重明

コシロシタバ 鱗翅目 (チョウ目) ヤガ科
Catocala actaea Felder & Rogenhofer, 1874

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



雌 日南町菅沢 2008.8.10 採集/撮影：矢野重明

■**選定理由**：生息地である里山のクヌギ・アベマキ薪炭林の減少や放置などで全国的に個体数が減少傾向とみられるが、県内の生息地の現況把握が不十分。

■**特徴**：開張55 mm前後。後翅は黒く、中央に大きな白紋がある。暖温帯の里山のクヌギ類を主体とする落葉広葉樹林に生息する。年1化卵越冬で成虫は7-9月頃に出現。幼虫の食樹はクヌギとアベマキで、樹齢20年以下のものをおもに利用する。

■**分布** 県内：全域に分布すると考えられるが把握が不十分。日南町では現在でも確認されている。県外：本州、四国、九州；ロシア沿海州、朝鮮半島、中国。

■**保護上の留意点**：里山の薪炭林の適正な管理、とくに食草のクヌギ・アベマキの適度な更新が望まれる。

■**文献**：42, 156.

執筆者：矢野重明

■参考文献 昆虫類

〈書籍略称〉

鳥取県のすぐれた自然(動物) = 江原昭三・鶴崎展巨(編)
(1993) 鳥取県のすぐれた自然(動物編) 鳥取県衛生環境部
自然保護課発行(鳥取市) 327 pp.
レッドデータブックとっとり(動物) = 鳥取県自然環境調査研
究会 動物調査部会(編)(2002) レッドデータブックとっ
とり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物. 動物編. 鳥取
県生活環境部環境政策課, 214 pp.

1. 穂山尊礼(2002) オオチャイロハナムグリ. p. 129. In: レッドデータブックとっとり(動物). 214 pp.
2. 秋山黄洋・大桃定洋(1997) 日本産タマムシ科チェックリスト. 月刊むし Supplement 1: 67 pp. むし社(東京)
3. 秋山美文(1980) 鳥取県産トンボについて. 昆虫と自然, 15(3): 12.
4. ㈱アジア航測(2002) 平成14年度日野川水系陸上昆虫類等調査業務調査報告書概要版.
5. 浅野 隆・小椋英勇(2000) 中国山地のオナガシジミの変異. 蝶研フィールド, 7(15): 15-19.
6. 東 光治(1939) 鳥取地方の砂丘に於ける昆虫相. 関西昆虫学会会報, 8: 25-46.
7. 福田晴夫(1997) 南九州沢原高原におけるオオウラギンヒョウモンの生態と保護(1)(2). Butterflies, 16: 4-17/17: 22-32.
8. 福田晴夫・美ノ谷憲久(2002) 西日本の日本海海岸線に分布するホシミスジ. 蝶研フィールド, 17(7): 17-22.
9. 古田 治(2005) 鳥取砂丘採集記(ゴヘイニクバエを求めて). はなあぶ, 19: 43-46.
10. 二橋 亮(2007) カワトンボ属の最新の分類学的知見. 昆虫と自然, 42(9): 4-7.
11. 郷原匡史(1993) キヌゲハキリバチに関する若干の生態的知見. 中国昆虫, 7: 29-34.
12. Habu, A. (1973) Fauna Japonica. Carabiidae: Harpaline. pp. 296-298.
13. 英 裕人(2002) ハッチョウトンボ. p. 107. In: レッドデータブックとっとり(動物).
14. 英 裕人・英 浩之(1996) 鳥取県東部のトンボの記録. Futao, 22: 1-12.
15. 長谷川寿一(2002) ミスジチョウ. p. 156. In: レッドデータブックとっとり(動物).
16. 羽田義任(2007) *Sphex inusitatus* Yasumatsu のホロタイプとフクイアナバチの学名について. つねきばち, 12: 1-3.
17. 林 成多・門脇久志(2005) 山陰初記録のクロガネネクイハムシとツヤネクイハムシ. すかしば, 53: 36-37.
18. 林 成多・門脇久志(2008) 日野川上流域に生息する水生甲虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, 11: 291-302.
19. 林 成多・門脇久志(2010) 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類Ⅲ. ホシザキグリーン財団研究報告, 13: 155-187.
20. 林 成多・門脇久志(2011) 日野川流域における水生甲虫類の分布. ホシザキグリーン財団研究報告, 14: 97-132.
21. 林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔(2003) 中国山地およびその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 6: 1-25.
22. 林 成多・藤原淳一・松田隆嗣・門脇久志(2010) 鳥取県大山における甲虫類の採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 13: 189-214.
23. 林 成多・川上 靖・門脇久志(2010) 鳥取県大山における直翅目の採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 13: 111-118.
24. 林 正美(2006) ズイムシハナカメムシ. p. 46. In: 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(昆虫類), 環境省.
25. 林 正美(2006) イトアメンボ. p. 106. In: 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(昆虫類), 環境省.
26. 林 正美(2006) タガメ. p. 111. In: 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(昆虫類), 環境省.
27. 林 正美(2006) ゴミアシナガサシガメ. p. 116. In: 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(昆虫類), 環境省.
28. 林 正美(2006) コオイムシ. p. 173. In: 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(昆虫類), 環境省.
29. 林 正美(2006) オオミズムシ. p. 174. In: 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(昆虫類), 環境省.
30. 林 正美(2006) ホッケミズムシ. p. 174. In: 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物(昆虫類), 環境省.
31. 日暮卓志(1993) 因幡のトンボ. すかしば, 39/40: 9-17.
32. 日暮卓志(2002) アオモンイトトンボ. p. 98. In: レッドデータブックとっとり(動物).
33. 日暮卓志(2002) ムカシヤンマ. p. 100. In: レッドデータブックとっとり(動物).
34. 日暮卓志(2002) コノシメトンボ. p. 109. In: レッドデータブックとっとり(動物編), 214 pp.
35. 日暮卓志・祖田 周(1995) 鳥取県のトンボ相 [I]. すかしば, 41/42: 39-52.
36. 日暮卓志・祖田 周(1998) 鳥取県のトンボ相 [II]. すかしば, 46: 57-63.
37. 広渡一成・渡辺一雄(2000) 西日本産ギフチョウのミトコンドリア ND5 遺伝子に認められたスニップス(一塩基多型: SNPs) とその意味. ホシザキグリーン財団研究報告, 4: 215-224.
38. 日浦 勇(1957) 日本産ハナカメムシの1新種の記載及びその生態の研究. 九州大学農学部学芸雑誌, 16: 31-44.
39. 星川和夫(2001) 米子市彦名処理地における水生節足動物および陸上昆虫類調査報告書.
40. 細木正男(1955) 鳥取県日野郡生物誌. 日野郡科学教育研究会.
41. 細木正男(1993) オオチャイロハナムグリ. pp. 148-149. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).

42. 井上 寛・杉 繁郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛・大和田守 (1982) 日本産蛾類大図鑑 第1巻：解説編+第2巻：図版・目録編. 講談社 (東京), 966 pp. +552 pp.
43. 井上 清・谷 幸三 (2010) 赤トンボのすべて. トンボ出版 (大阪), 183 pp.
44. 伊藤 寿 (2009) 鳥取県のホシミスジ. pp. 1-6. In 「蝶学をめぐる諸問題・第3集」. タカオ・ゼミナール.
45. 岩田久二雄 (1941) 日本内地産葉切蜂六種の習性考察. pp. 223-248. In: 紀元2600年高津中学記念論文集.
46. 神保宇嗣 (2010) みんなでつくる蛾類図鑑. <http://www.jpmoth.org/>
47. 門脇久志 (1993) ニシカワトンボ・ヒウラカワトンボ. pp. 100-101. オオカワトンボ「中部群」・「中国群」. pp. 102-103. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
48. 門脇久志 (1994) キリシマミドリシジミ. p. 53. In: 山陰むしの会 (編) 山陰のチョウたち. 山陰中央新報社, 207 pp.
49. 環境省 (編) (2006) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック5. 昆虫類. 財団法人自然環境研究センター (東京), 246 pp.
50. 加納康嗣・富永 修・田畑郁夫・別府隆守・石川 均・村井貴史・三時輝久・河北 均・豊嶋 弘・高橋耕司 (1999) 日本の短翅ササキリモドキ類 (直翅目, キリギリス科, ヒメツユムシ亜科). *Tettigonia*, 1 (2): 1-81.
51. Kawakami, Y. (1999) Geographic variation of the brachypterous grasshopper *Parapodisma setouchiensis* group in western Honshu, with its taxonomic revision. *Species Diversity*, 4: 43-61.
52. 川上 靖 (2007) セトウチフキバタ群 (直翅目バタ科) の各地理空間にみられる「移行帯」とその形成過程の推定. *タクサ*, 22: 15-19.
53. 川上 靖 (2010) 鳥取県におけるシブイロカヤキリ (キリギリス科) の分布. *山陰自然史研究*, 5: 74-75.
54. 川上 靖・星川和夫 (2005) ダイリフキバタ *Collopodisma dairisama* とセトウチフキバタ *Parapodisma setouchiensis* の形態比較. *New Entomologist*, 54 (3/4): 53-59.
55. 川上 靖・星川和夫 (2006) セトウチフキバタ *Parapodisma setouchiensis* の型間に二次的接触の痕跡はあるか? *New Entomologist*, 55 (1/2): 9-13.
56. 川上 靖・干村隆司 (2008) 鳥取県におけるニッポンハナダカバチ (アナバチ科) の分布. *山陰自然史研究*, 4: 17-22.
57. Kawakami, Y. & Tatsuta, H. (2010) Variation in the shape of genital appendages along a transect through sympatric and allopatric area of two brachypterous grasshoppers, *Parapodisma setouchiensis* and *Parapodisma subastris* (Orthoptera: Podisminae). *Annals of the Entomological Society of America*, 103 (3): 327-331.
58. 衣笠弘直 (1973) 鳥取県東部のトンボ, 智頭地域を中心に. 著者自刊 (謄写刷り), 32 pp.
59. 衣笠弘直 (1996) 鳥取県国府町でタガメを採集. すかしば, 43/44: 72.
60. 桐原佳介・菱谷眞一郎 (2006) 鳥取県米子市内におけるコオイムシの記録. *山陰自然史研究*, 2: 20.
61. 桐原佳介・神谷 要 (2006) 鳥取県日野郡日野町葦池における水生昆虫および水草の記録. *山陰自然史研究*, 2: 18-20.
62. 桐原佳介・菱谷眞一郎・菱谷泰志 (2007) 鳥取県米子市におけるオオクワガタの採集記録. *山陰自然史研究*, 3: 15-16.
63. 北村彰三 (1959) 鳥取市付近のトンボについて. ヒサマツ (鳥取昆虫同好会) 未刊原稿.
64. 小林一彦 (1968) 鳥取県産蝶類略目録. pp. 42-59. In: 「鳥取県立博物館所蔵標本目録 (5)」. 鳥取県立博物館.
65. 小林一彦 (1983) ハマスズの小観察. *教材生物ニュース*, 93: 77-89.
66. 小林一彦 (1994) 山陰地方のギフチョウとカンアオイ. pp. 166-169. In: 「山陰のチョウたち」. 山陰中央新報社 (松江市) 208 pp.
67. 小林一彦 (2002) ハマスズ. p. 110. In: レッドデータブックとっとり (動物).
68. 小林一彦 (2002) ヤマトマダラバタ. p. 113. In: レッドデータブックとっとり (動物編).
69. 小林一彦 (2002) セグロイナゴ. p. 113. In: レッドデータブックとっとり (動物).
70. 小林一彦 (2002) アカエゾゼミ. pp. 118-119. In: レッドデータブックとっとり (動物).
71. 小林一彦 (2002) ハルゼミ. p. 119. In: レッドデータブックとっとり (動物).
72. 小林一彦 (2002) ヒメハルゼミ. pp. 120-121. In: レッドデータブックとっとり (動物).
73. 小林一彦 (2002) フクイアナバチ. p. 135. In: レッドデータブックとっとり (動物).
74. 小林一彦 (2002) キバネセセリ. p. 138. In: レッドデータブックとっとり (動物).
75. 小林一彦 (2002) コキマダラセセリ. p. 140. In: レッドデータブックとっとり (動物).
76. 小林一彦 (2002) スギタニルリシジミ. pp. 150-151. +ヒメシジミ. p. 151. In: レッドデータブックとっとり (動物).
77. 小林一彦 (2002) ウスイロヒョウモンモドキ. p. 152. In: レッドデータブックとっとり (動物).
78. 小林一彦 (2006) 鳥取県の海浜性直翅目. すかしば, 54: 37-40.
79. 小林佳崇・佐藤隆士 (2010) 鳥取県からのアカマダラハナムグリの採集記録. *山陰自然史研究*, 5: 76.
80. 国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所 (1999) 平成10年度天神川水系 (天神川・三徳川・小鴨川・国府川) 底生動物調査.
81. Komiya, J. (1980) Description of a new species of Clytini from Tottori Prefecture (Cerambycidae). *Elytra* 7: 33-34.
82. 河本哲至・井上 敏明 (1978) 倉吉市周辺の甲虫. すかしば, 10: 5-16.
83. Kuboki, M. (1981) Study on the Lepturine genus